

令和4年度「妊産婦に関する調査」フォローアップ調査(追跡調査)調査票等(案)

資料掲載順

No	内 容		掲載頁
1	「妊産婦に関する調査」 フォローアップ調査 (追跡調査)	調査票(案)	③-78
2		リーフレット(案) 調査票送付時に同封	③-80

左右を両面印刷し、三つ折りにし封書で発送。

回答は、はがきをキリトリ、保護用紙を貼付し返送。

<個人情報の取り扱いについて>

本アンケートに関する個人情報は、県民健康調査において使用するほか、お住まいの市町村にも必要に応じて提供させていただきます。また、アンケートへの回答や結果、回答に基づく支援内容等については、学術的研究目的の利用及び公表（統計処理等）をしますが、個人が特定される形で公表することはありません。

キリトリ線

郵便はがき
9601290

福島市光が丘一丁目

福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター 行



県民健康調査
はがき

福島県・福島県立医科大学

〒960-1295 福島市光が丘1
公立大学法人 福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
お問い合わせ先 TEL.024-549-5180

県民健康調査

キリトリ線

アンケートの送り方

1 キリトリ線に沿ってはがきを切り離してください。



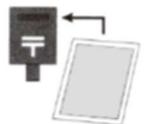
2 はがきの記入欄に必要事項を記入してください。



3 同封のシールをはがきの裏面に貼り付けて記入欄が見えないようにしてください。



4 そのまま郵便局へお出しください。



料金受取人払郵便
福島中央局
承認
承

福島中央局
承認
承

差出有効期間
令和5年12月
31日まで

「平成26年度妊産婦に関する調査」に
ご回答いただいた方へ
出展後8日アンケートのお願い

これまでの「妊産婦に関する調査」からわかります

早産率、低出生体重児率、先天奇形率の推移

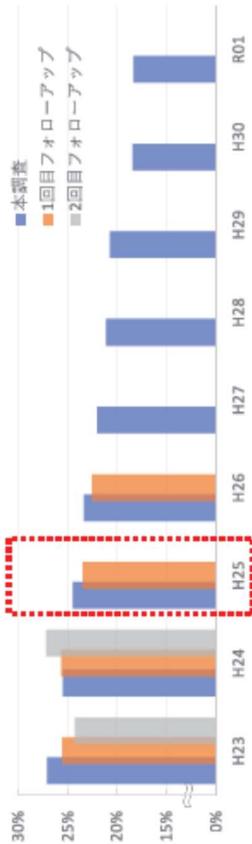
本調査の結果、早産率、低出生体重児率、先天奇形率は、全国調査の値や一般的な水準と同等になっています。

	早産率(%)		低出生体重児率(%)		先天奇形・先天異常発生率(%)	
	本調査	全国調査	本調査	全国調査	本調査	一般的な水準
H23	4.6	5.7	8.6	9.6	2.85	
H24	5.6	5.7	9.2	9.6	2.39	
H25	5.2	5.8	9.6	9.6	2.35	
H26	5.3	5.7	9.8	9.5	2.30	3~5
H27	5.6	5.6	9.4	9.5	2.24	(産婦人科診療ガイドライン産科編2020より)
H28	5.3	5.6	9.2	9.4	2.55	
H29	5.3	5.7	9.2	9.4	2.38	
H30	5.2	5.6	9.0	9.4	2.19	
R01	5.1	5.6	9.1	9.4	2.71	

※早産であった方を除いて調査計したため、報告率の値と異なります。
 早産：妊娠22週から37週未満で生まれた赤ちゃん、低出生体重児：2,500gより小さい生まれた赤ちゃん
 全国調査：人口動態統計における年単位の新着

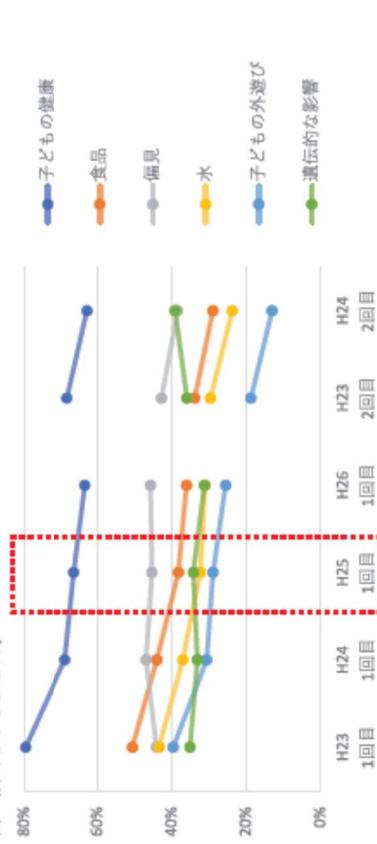
うつつ傾向の推移

本調査の結果、年々うつつ傾向が改善しています。令和元年度本調査の「うつつ傾向あり」の割合は、全国の産後うつつ病疑いの割合と同等になっています。
 平成25年度回答者は、1回目フォローアップ調査において、うつつ傾向が改善しています。



放射線の影響について心配なこと

1回目及び2回目フォローアップ調査の結果、「偏見」「遺伝的影響」はほぼいい傾向ですが、「子どもの健康」「食品」「水」「子どもの外遊び」に不安を感じる母親は少なくなっています。
 平成25年度回答者は、1回目フォローアップ調査において、「子どもの健康」への不安が一番高い傾向を示しました。



電話相談の内容

平成23年度本調査では、「放射線の心配や影響」に関する相談が一番多い結果でした。最近では、「母親のこころや身体の健康」に関する相談が多くなっています。

順位	本調査					2回目フォローアップ調査					1回目フォローアップ調査					フォローアップ調査					
	H23	H24	H25	H26	H23	H23	H24	H25	H26												
1位	放射線の心配や影響 身体の健康	母親のこころや身体の健康	放射線の心配や影響 身体の健康	母親のこころや身体の健康	放射線の心配や影響 身体の健康	放射線の心配や影響 身体の健康	母親のこころや身体の健康	放射線の心配や影響 身体の健康													
2位	母親のこころや身体の健康	子育て関連	放射線の心配や影響 身体の健康	子育て関連	放射線の心配や影響 身体の健康	放射線の心配や影響 身体の健康	子育て関連														
3位	子育て関連	放射線の心配や影響 身体の健康																			

Q & A

上手に歯磨きができません、永久歯の虫歯が心配です。

福島県の小学生のむし歯被患率は51.4%と近年は減少する傾向にありますが、全国と比較し11.2%上回っています。
 小学校低学年の時期は乳歯から永久歯へ生え変わる時期で、奥に生える永久歯は12~13歳ごろに生えそろいます。奥歯の磨き残しが多くなりやすいため、フッ素入り歯磨き粉を使用し、就寝前の仕上げ磨きをするなど、歯の様子を気にかけてあげましょう。また、おやつは1日2回程度、時間を決めて食べるようにし、ふだんの水分補給は水やお茶などの甘い飲み物にしましょう。

参考：令和2年度学校保健統計(福島県)、母子健康手帳

おねしょを治すには、どうすればよいですか？

「5歳以降に1か月に1回以上の夜尿が3カ月以上続くこと」を夜尿症と言います。
 小学校入学時におよそ10人に1人いると言われています。「寝る前におしっこをさせる」、「寝る前の水分を控える」、「寝ている時は起ささない」、「温かくして眠ること」がよいとされ、成長とともに自然に治ると言われています。悩んでいる場合には、泌尿器科や小児科で治療が可能ですので、相談をお勧めします。

参考：日本夜尿症学会「夜尿症診療ガイドライン2016」

将来の子どもの健康不安や、被災したことへの偏見の目が心配です。

福島県が実施した内部被ばく検査の結果によれば、検査を受けた全員が健康に影響が及ぶ数値ではなかったとされています。さらに、妊産婦に関する調査の結果から、震災後、福島県内における先天異常の発生率は、全国的な統計や一般的に報告されているデータと差がないことが確認されています。
 偏見による差別やいじめをすることは決して許されるものではありません。根拠のない思い込みから生じる風評に惑わされることなく、信頼できる情報かどうかを確認し、科学的根拠や事実に基づいて行動していくことが必要です。

参考：文部科学省 放射線相談本

コロナ禍で子どもは外出や友達と遊ぶことを避けたほうがいいでしょうか？

子どもにとって遊ぶことは、心身の発達においてとても重要です。感染のリスクを下げるためにマスクを着用するほか、「みんながよく触れる場所に触った後は手洗いを」、「少人数にする」、「食事をとるときは対面にならぬように工夫をする」などをすれば、外出や子ども同士の遊びは可能です。また外出する際は、流行状況を確認し移動等の自粛要請が出ていないことを確認しましょう。

参考：日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会 新型コロナウイルス感染症に関するQ&A

「妊産婦に関する調査」の詳しい結果は、ホームページに掲載しています。
<https://fukushima-mimamori.jp/pregnant-survey/result.html> 検索